

大麦特報（第2号）

令和5年10月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

大麦の播種作業は10月上旬から始まり、現在の生育は概ね順調です。
今後は、排水溝の手直し等の排水対策を徹底するとともに、分施体系の場合は年内追肥を確実にを行い、年内の生育量を確保しましょう。

1 排水対策の徹底

大麦は湿害に弱いため、ほ場に水が溜まっていると根の活力が低下し、生育不良につながります。ほ場内の排水状況をこまめに確認しましょう。

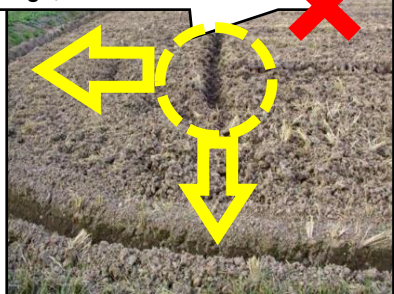
降雨後、ほ場内に停滞水が残る場合は、随時溝を深く掘り下げたり、新たに溝を掘る等、早急に排水を促し、越冬前に十分な茎数を確保しましょう。

○排水対策のチェック項目 ➡ ほ場に水が溜まっている場合は、要確認！

- ①縦溝と横溝がしっかり連結されているか。
- ②溝が埋まっている所や浅い所がないか。
- ③額縁排水溝が排水口に確実に連結されているか。
- ④排水口が掘り下げられ、円滑に排水されているか。



額縁排水溝と連結されていない



溝が埋まって排水できない



排水口（マス）につながっていない



2 年内追肥（分施体系）

年内追肥は茎数の増加を促し、穂数や収量を確保するための重要な作業です。
播種後1か月頃を目安に遅れないように施用しましょう。

【年内追肥の目安】

施用時期	肥料名	10aあたり施用量
播種後1か月頃	硫安	20kg

※肥効調節型基肥肥料（Jコート大麦48号）を施用した場合、原則として追肥は不要です。